



令和2年度版



袋井市森町広域行政組合 袋井消防署 地域支援係
〒437-0012 静岡県袋井市国本 2907 番地 TEL0538-42-0119 FAX0538-43-5751



1. 袋井消防本部・消防署の概要

ふくろいしょうぼうほんぶ しょうぼうしょ がいよう
 みんなの家の近くに、消防署はあるかな？



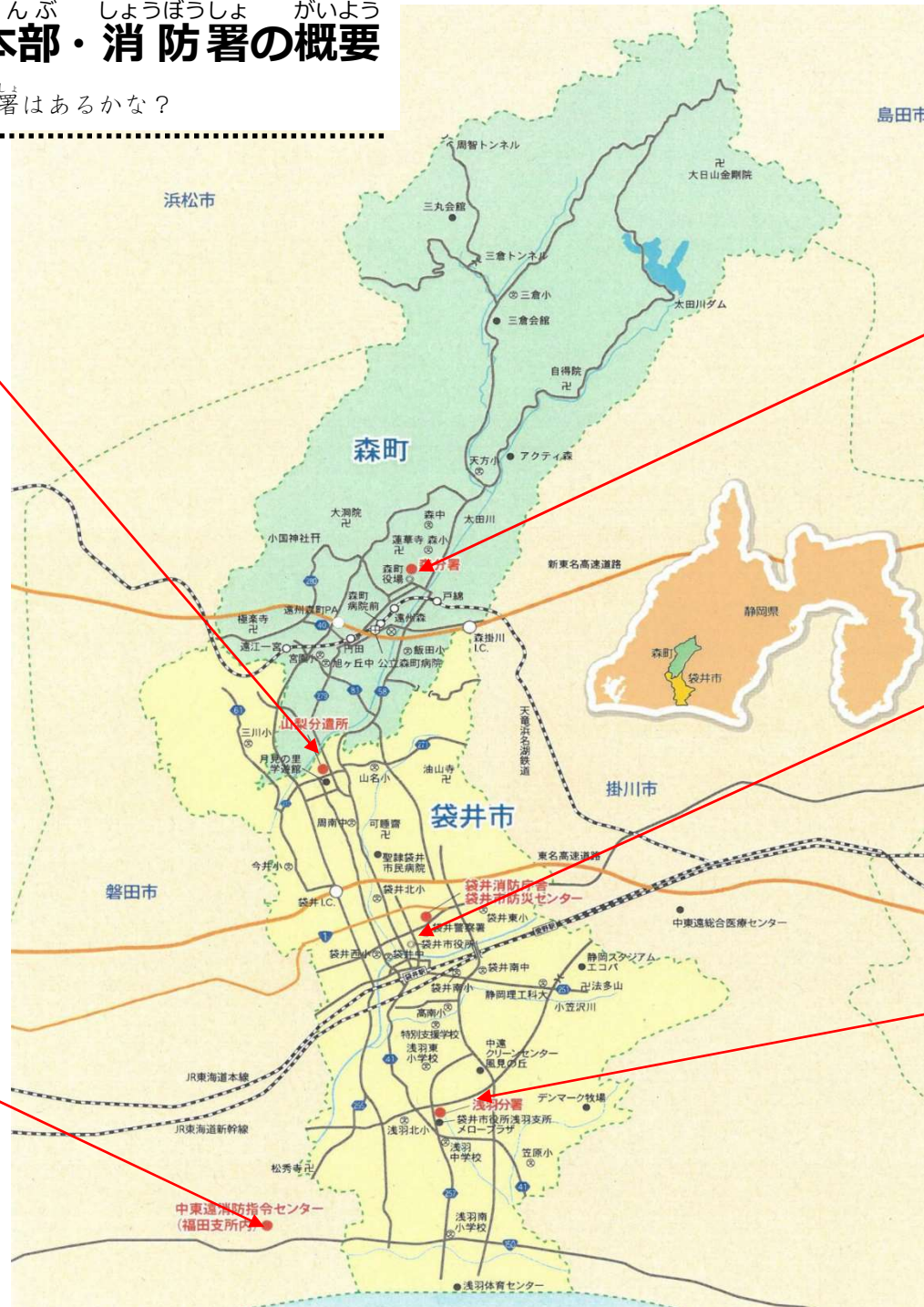
【袋井消防署山梨分遣所】

住所…袋井市上山梨三丁目27-4
 [職員数] 10人、[車両数] 2台



【中東遠消防指令センター】

住所…磐田市福田400
 [職員数] 28人(内、袋井から5人派遣)
 ※西部地区5消防本部で共同運営



【袋井消防署森分署】

住所…周智郡森町森48-2
 [職員数] 23人、[車両数] 4台



【袋井消防本部・袋井消防署】

住所…袋井市国本2907
 [職員数] 本部…23人、署…49人
 [車両数] 本部…5台、署…11台



【袋井消防署浅羽分署】

住所…袋井市浅名1045
 [職員数] 20人、[車両数] 4台



2. 消防署のようす

消防署の中には、どんな秘密があるのかな？

◎本署執務室

事務仕事をするところです。
多くの机が並んでいます。



◎情報管理室

災害現場で活動する部隊と無線交信します。様々な情報を集める専門の部屋です。



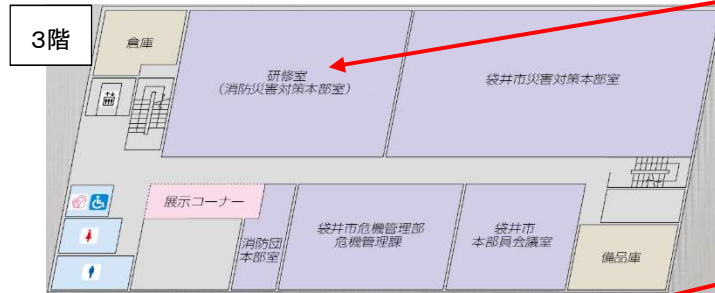
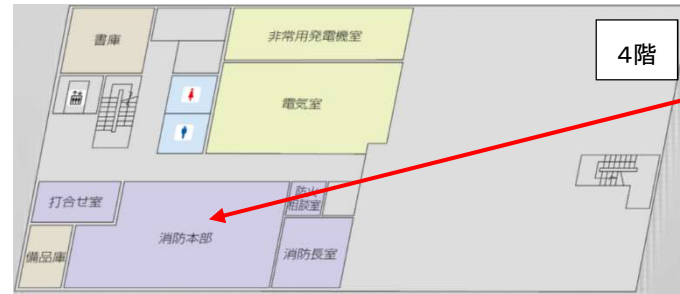
◎出動準備室

防火服やヘルメットをしまっています。いつでも出動できるように、職員それぞれが工夫をおいています。



◎玄関ロビー

来庁者を出迎えます。さまざまな消防情報をパネル展示しています。



◎本部執務室

事務仕事をするところです。
多くの机が並んでいます。



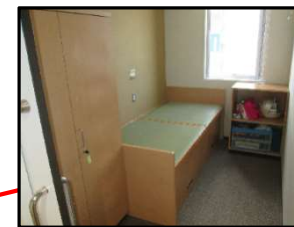
◎研修室

講習会や大きな会議を行う場所です。



◎仮眠室

夜間に休む部屋です。仮眠中でもすぐに出動できるよう、活動服を着ています。



◎トレーニング室

人命救助のために、常にトレーニングをして体を鍛えます。



◎消防車両車庫

いつでも出動できるように、車両の並べ方も工夫しています。





3. 消防車両の概要

消防車の仕組みや安全に火を消すための工夫を見てみよう。

消防車には、ホースをたくさん積んだ『消防ポンプ自動車』や10t(10の牛乳パック10,000本分)の水を積んだ『水槽付き消防ポンプ自動車』、13mの高さまで届く『小型はしご付き消防ポンプ自動車』など、いろいろな種類の消防車があります。火災の種類に最も適した消防車を選択して出動します。

消防ポンプ自動車



火災データ【2019年中】

●管内の火災件数

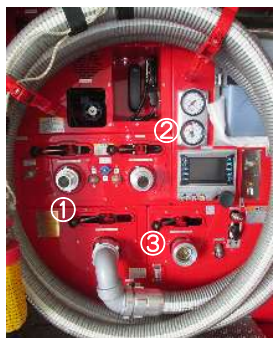
34件(約11日に1件)

●建物火災の件数

20件(火災全体の約60%)

●被害総額(推計)

3億6168万4千円



●ホース

長さ20mの消防ホースを消防車1台に平均30本載せています。ロールケーキのように丸めていたり、大きな袋に折りたたんで収納したりと、火災現場に最も適したものを選択して消火活動を行います。



●ホースカー

約10本のホースを積むことができ、人が引っ張ることで簡単にホースを伸ばすことができます。



☆消防活動訓練☆



①放水口(ほうすいこう)

ホースをつなぎ、レバーで水を送ったり止めたりします。

②メーター

メーターは、ホースに水を送る強さが確認できます。

③中継口(ちゅうけいこう)

他の消防車から水をもらう時に使います。

消防隊員は、炎や煙から身を守るために、さまざまな装備を身につけています。

●防火服

水を通さず熱にも強い素材でできています。約1,000度の熱にも耐えることができます。



●空気呼吸器

背負ったボンベから空気を吸うことで、煙の中でも活動を続けることができます。しかし、空気の量は少ないため、15分程度しか活動できません。



●防火長靴

炎や衝撃に強い長靴です。釘などを踏み抜かないように、足先と底に鉄板が入っています。



●携帯無線機

現場の情報を伝えたり、活動の結果を報告するなど、離れている隊員同士との通信に使います。



●携帯警報器

消防隊員が動けなくなるような危険な状態となったとき、自動で警報音が鳴り、他の隊員に危険を知らせます。





4. 救急車両の概要

救急車の仕組みや装備、活動について見てみよう。

救急車の中には、100個以上の観察器具や応急処置器具が装備されています。無線機や携帯電話を使って、病院の医師と常に連絡を取り合いながら、病気やケガをした人を少しでも早く病院に連れて行けるようになっています。

救急データ【2019年中】

- 管轄内の出動件数
3,589 件 (1日に約 9.8 件)
- 病院に運んだ人数
2,692 人 (1日に約 7.4 人)



● **ベッドサイドモニター**
血圧や心拍数、心電図などを測ります。



● **電動吸引機**
のどに何か詰まった時、吸い取ります。



● **AED**
(自動体外式除細動器)
心臓がけいれんした時、電気ショックを与え、心臓のリズムを元に戻します。



● **呼吸管理セット**
呼吸が苦しい人などに酸素を送ります。



● **ストレッチャー**
歩くことができない人を乗せ、救急車内に搬送します。

救急隊員の装備品と、訓練や活動の様子を見てみましょう。

● **隊長カバン**
病気の状態を観察するための血圧計や血中酸素飽和度測定器、聴診器や体温計など、携帯できる器具が入っています。



● **感染防止衣**
出血した血や、おう吐物などから救急隊員に病気が感染しないように、特殊な素材の服を着て出勤します。

● **救急搬送表** (きゅうきゅうはんそうひょう)
● **携帯電話** (けいたいでんわ)
病気の状態やケガの部位、住所や氏名など、搬送した病院で医師に引き継ぐ情報を書き留めます。また、携帯電話を使って、病院の医師と連絡を取ります。



☆シミュレーション訓練☆





5. 消防署の工夫の代表例

消防署には多くの工夫が隠されています。なぜだろう？



火を出さないための工夫

● 火災予防広報活動

3月や11月の火災予防運動期間や産業祭などの地域のイベントの際に、「火の用心」の広報活動を行います。



● 花火教室・立入検査

幼稚園や保育園を訪問し、花火の安全な使い方や説明します。また、会社や工場に立ち入り、消火器や警報設備などの消防に関する機器が正しく維持管理されているか検査をします。



早く火を消すための工夫

● 警防活動訓練

実際の火災現場をイメージして、ホースを伸ばしたり、放水したり、煙の中から人を救出したりと、様々な訓練を毎日行います。



● 警防調査・図上調査

消火栓や防火水槽などの消防水利の位置や状態を確認したり、消防車で通り抜けることができる道を確認したりします。



● 車両・資機材点検

いつでもすぐに使うことができるように、消防車両や資機材を毎日チェックします。



早く出動するための工夫

● 24時間勤務体制

24時間365日、いつでも素早く出動するため、朝8時30分から次の日の朝8時30分まで消防署で勤務します。勤務中は、仕事以外の外出はできません。ご飯を食べていても、トイレに入っても、災害が発生すれば直ちに出動します。

● 仮眠時の服装

いつでも素早く出動するため、仮眠時間でも日中と同じように活動服を着た状態で仮眠します。パジャマは着ません。

● 専用の出動動線

いつでも素早く出動するため、乗庁者が使うことのない出動専用の廊下・階段を使って、出動準備室から消防車両に乗車します。

● 防火服の置き方

いつでも素早く出動するため、防火長靴に防火ズボンをおろして合体させておきます。見た目はだらしないけれど、1分1秒を争う現場では必要なことです。



どうしてこんなに工夫が必要なのかな？

答えは…

袋井市民・森町民が安心して暮らせるまちを目指しています。

早く火災現場に到着して消火活動を行うことが、市民町民の命や財産の救出につながります。だからこそ、少しでも出動する時間を短くするために様々な工夫や努力をしていますし、火災を起こさない努力も惜しみません。

袋井市民・森町民が安心して暮らせることが、私たち消防士たちの願いです。



6. 消防雑学・Q&A

消防の秘密を紹介します。きみは知っているかな？

Q1 消防車の色はなぜ赤色なの？

A 「道路運送車両の保安基準」という法律の中で、『消防自動車は朱色、そのほかの緊急車両は白色』と決められているからです。また、日本が初めて外国から輸入した蒸気ポンプ消防車が朱色(赤色)だったことも理由の一つとされています。



Q2 消防車はどのくらいの速さで走るの？

A サイレンを鳴らして走るとき、一般の道路では時速80km、高速道路では時速100kmを最高速度とするよう「道路交通法」という法律で決められています。サイレンを鳴らさないで走るときは、一般の車と同じ速度で走ります。

Q3 火事を消すのに、どのくらい水が必要なの？

A 火事のおきさによってさまざまです。バケツ一杯の水で消すことができる火事もあれば、50t以上の水を使う火事もあります。ガソリンや灯油などの危険物の火事の場合は、泡の消火剤を使うこともありますし、水をかけると爆発する火事もあります。

Q4 火事が起きたら消防車は何台出動するの？

A 家やビル、車や山林など、火事の種類によって出動する消防車の種類や台数は変わりますが、一戸建て住宅が燃えるなどの一般的な建物火災では、指揮車・タンク車・ポンプ車・小型はしご車・救助工作車・救急車の計6台が最初に出動します。また、地域を守る消防団のポンプ車なども10台程度出動します。

Q5 火事を消すときに使う水はどこにあるの？

A 消火活動には、消火栓や防火水槽などの人工的な水利や、川や池などの自然の水利の水を使用します。ちなみに、人工的な水利は、皆さんが家庭などで使う水道管から出る水道水を使用しているので、水道料金が掛かると思われがちですが、「水道法」という法律で『消防用として使用された水の料金は徴収することができない』とされているので、水道料金は掛かりません。

Q6 消防車や救急車の値段はどのくらいなの？

A 消防車や救急車は、一般的な乗用車やトラックと違い、人の命や建物などを様々な災害から守るための特殊な装備品を載せています。また、注文に合わせて1台1台手作りしています。値段は高く、袋井消防署のポンプ車は約3,500万円、救急車は約4,000万円、救助工作車は約8,000万円、小型はしご車は約9,000万円です。